

第45回情報理論とその応用シンポジウム (SITA2022) 予稿集 原稿様式

How to Write a SITA2022 Manuscript

SITA2022 事務局*
SITA2022 Secretariat

Abstract— This document provides information on a SITA2022 manuscript.

Keywords— SITA2022, L^AT_EX, style file

1 はじめに

本稿には、SITA2022 予稿集の原稿の作成・提出に関する情報が記載されています。

2 予稿集用原稿の作成

投稿された PDF 原稿ファイルをそのまま収録した予稿集を作成し、ファイルにて配布します。また、原稿の著作権は電子情報通信学会に帰属します。SITA2022 ホームページ (<http://www.ieice.org/ess/sita/SITA2022/>) に掲載してある注意事項を厳守して、原稿を作成してください。

2.1 様式

- 原稿サイズ A4 判 (縦 297mm, 横 210mm)
- 論文題目, 著者名, あらまし, 本文等全てを含み最大 6 頁
- 論文題目が英文の場合は, 前置詞と冠詞を除き, 単語ごとに一文字目は大文字
- 印刷時の上余白 25mm 以上, 下余白 20mm 以上, 左右余白 17mm 以上
- 2 段組, 10pt 程度の文字
- PDF 原稿ファイルサイズ 3MB 以下

SITA2022 原稿の L^AT_EX 用スタイルファイルおよび Word 用テンプレートが, SITA2022 ホームページ

<http://www.ieice.org/ess/sita/SITA2022/>

より入手できます。

2.2 ヘッダ

原稿の第一頁において, 上余白 9mm(以上), 右余白 9mm(以上) あけ, 7pt 程度の文字で

The 45th Symposium on Information Theory
and its Applications (SITA2022)

Noboribetsu, Hokkaido, Japan, Nov. 29–Dec. 2, 2022

と記入してください。第二頁以降にヘッダは不要です。スタイルファイルを使用している場合, このヘッダは自動的に挿入されます。

* 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1 電気通信大学 SITA2022 事務局. Graduate School of Informatics and Engineering, The University of Electro-Communications, 1-5-1 Chofugaoka, Chofu-shi, Tokyo, Japan. E-mail: sita-2022@mail.ieice.org

2.3 第一頁に記載する事項

第一頁に次の事項を記載してください。

1. 本文が和文のとき

- 論文題目 (和文と英文の両方)
- 著者名 (和文と英文の両方)
- 著者の所属, 所在地 (和文と英文の両方)
- あらまし (約 100 語の英文)
- キーワード (英文で 3?5 個)

なお, 和文のあらましとキーワードは必要ありません。

2. 本文が英文のとき

- 論文題目 (英文)
- 著者名 (英文)
- 著者の所属, 所在地 (英文)
- あらまし (約 100 語の英文)
- キーワード (英文で 3?5 個)

2.4 カラー, 写真について

本予稿集は, ファイルで配布しますので, カラーと写真の使用も可能です。ただし, 白黒印刷をして利用することも考えられますので, 白黒印刷でも内容の把握が可能であるようご配慮ください。また, 投稿の際には, PDF 原稿ファイルサイズが 3MB 以下となっていることを再度ご確認ください。

3 論文投稿方法について

原稿は PDF ファイルでご用意ください。原稿は, 「参加・発表・宿泊申し込み」のページで受け付けます (SITA2022 ホームページ <http://www.ieice.org/ess/sita/SITA2022/> にリンクが張ってあります)。

論文投稿のシステムに関するお問い合わせは,

sita-2022pub@mail.ieice.org

までお願い致します。

3.1 注意事項

原稿が指定の様式を満たしていることを確認してください。また, PDF 原稿ファイルへ文字フォントを埋め込んでください。なるべく複数のシステムで PDF 原稿ファイルが閲覧・印刷できることを確認しておくが確実です。

文献

- [1] SITA2021 Secretariat, “How to write a SITA2021 manuscript,” The 44th Symposium on Information Theory and its Applications, 2021.